

活気あふれる船橋の魅力をご紹介します

新春特別企画 地元の先人たちの歩みを知ろう！

小室台遺跡

市内初の前方後円墳をはじめ、さまざまな遺物を発掘！

旧石器～江戸時代 幅広い年代の遺跡

文化課 ☎ 436-2898



小室台遺跡の前方後円墳に当時の有力者を埋葬する様子を再現したイメージ図

市内には、旧石器時代から江戸時代まで、約200カ所の遺跡が確認されているのをご存じでしょうか。そこから数多くのお宝(遺物)が発見されています。これらは当時の人々の生活を知るための大切な手がかりとなります。市では、現在も毎年30件以上の発掘調査を行うほか、展示や遺跡見学会等を通じて埋蔵文化財の周知や啓発活動も行っています。今号では、平成20年11月から27年3月まで記録保存のための作業を行った「小室台遺跡」を紹介します。



※小室台遺跡は発掘調査をして報告書により記録を残す「記録保存」を行いました。遺跡は現在、現地にはありません

小室台遺跡では旧石器～江戸時代(弥生時代を除く)までの幅広い年代の遺跡や遺物がたくさん発見されています。なかでも古墳時代については、市内初となる前方後円墳が発見され、「大刀」など貴重な遺物が出土しています。また、40軒に及ぶ竪穴住居跡も発掘し、大きな集落があったことがわかりました。

広大な敷地面積

北総線小室駅から小室公園に及ぶ約4万5000平方メートルの広範囲の遺跡です(右図参照)。



① 前方後円墳 (古墳時代)

◀平成22年に上空から撮影した小室台遺跡。現在は閑静な住宅街に

こんなものも 見つかりました



古墳時代後期(6世紀末～7世紀初頭)に造られたもので、小室の有力者を葬ったと考えられます。当時小室は印波国(現在の成田市、佐倉市、八街市、四街道市、印西市、船橋市北部など)に含まれていました。大きさは全長32メートルで、前方部と後円部に計2カ所の埋葬施設がありました。そこから、ヒノキの鞘に納められた大刀やガラス小玉、勾玉などの副葬品が出土しました。

小室に住む人々の生活の変化

※当時の人々はこのように暮らしていたと考えられます

時代	内容
旧石器時代 (~紀元前1万4000年ごろ)	氷河時代、移動を繰り返しながら狩猟や木の実などを採集する生活をしていました。狩猟のために、キャンプをした跡が見つかっています。
縄文時代(前1万4000年～前400年ごろ)	場所を変えながらも、竪穴住居を築いて台地上に住み、縄文土器・石器などを使って、主に採集・狩猟・漁をして暮らしていました。獣を捕るための落とし穴も見つかっています。
古墳時代(3世紀半ば～7世紀)	5世紀半ばから台地上に多数の竪穴住居がある大きな集落が生まれ、台地の下では稲作を行っていました。5世紀後半からカマドを使うようになり、6世紀末には前方後円墳をはじめとする古墳を築造しました。
平安時代(8世紀末～12世紀)	台地上に竪穴住居跡が2軒見つっていますが、大きな集落ではなかったようです。
鎌倉～戦国時代(12世紀～16世紀)	有力な武士に支配されていましたが、しだいに中山法華経寺領の色合いを強めていきました。14世紀には「古牟呂村」が生まれ、台地上に作った屋敷跡、倉庫群、道路跡等が見つかっています。
江戸時代(17世紀～19世紀)	小室台遺跡の東側は小室村と呼ばれ、台地の下に住み、低地で稲作、台地の上では畑作や炭の生産を行いました。小室の村人が作った祠が今なお残り、多数の溝や道なども見つかっています。村人たちは教育熱心で寺子屋に多くの生徒が通っていました。

③ 鍋被り葬 (江戸時代)

▼手足を折り曲げ、頭や腹部に鍋を被せて埋葬しました

江戸時代(17世紀後半)のもので、流行り病やお盆の期間に亡くなった人に鍋を被せて埋葬したものと考えられています。この風習は東日本を中心に広く行われていますが、船橋市では初めて発見されました。



② カマド (古墳時代)

古墳時代中期後半(5世紀末)から住居内の壁面に煙出しの穴を持ち、熱効率の良い「カマド」が作られるようになりました。当時はコメ、ハトムギ、ヒエなどの穀物を蒸して食べていました。



◀煮炊きには土師器という素焼きの土器の甕が使われました(提供:佐藤喜一郎氏)



6世紀半ばのものと思われるカマド▶

市では、市の歴史や文化について市民の皆さんに知ってもらうため、2つの博物館で資料の収集・保管と展示をしています。

■郷土資料館
市の考古・民俗・歴史資料を中心に展示しています。
※工事のため29年4月下旬まで休館中
(所在地)薬円台4-25-19
(問合せ) ☎ 465-9680

■飛ノ台史跡公園博物館
同博物館のある飛ノ台貝塚は、約7000年前の縄文時代早期の遺跡で、日本で初めて炉穴が見つかるなど、全国的にも注目されています。飛ノ台貝塚の出土品や復元した竪穴住居などの展示を通して、当時の歴史や暮らしが学べます。(1月の催しは9面参照)
(所在地)海神4-27-2 (開館時間)午前9時～午後5時※毎週月、1月1日(祝)～3日(日)、11日(祝)、12日(祝)は休 (入館料)一般100円、小学生～高校生50円(市内在住の中学生以下は無料)
(問合せ) ☎ 495-1325

1/30(土) 小室の遺跡も紹介 千葉県北西部地区文化財発表会

「これって何? ~くらしの中の知恵と技~」
千葉県北西部の11市が集まり、同じく縄文時代生活をしてきた昔の人々が、暮らしの中でどのような知恵や技術を駆使していたのか、各市の教育委員会担当者が発表します。船橋市は「炉からカマドへ-船橋市小室台遺跡より-」を講演し、同遺跡から発掘された「大刀」や「ガラス小玉」を資料展示します。
(日時)1月30日(土)午前9時30分～午後5時※船橋市は午前11時30分
(費用)無料
(問合せ)文化課 ☎ 436-2898

